の解放により安闘成立せる結果で放は開係山、宋子文、孔祚県氏等

り安閣成立せる結果で を十分考慮する ・ 宋子文、孔祚麒氏等 四、南京政府に生 月間盟 - 府代石町の閣 - 氏が責任を真ふ

安閣様性は左の四項目であると云

妥協の經緯

龍海線より西安に向け連駆せしめ 蔵力討伐駅行に決し優弱な大軍を たので、このまく事態を選延せし

蔣介石氏を機性にしても反説派の一

一時代石氏生質恩祝で難沓してゐる

とし配頭は遊戲に陥った

街頭は混亂に陷る

時館一部急膨分子の抗日アデが行 二十五日夜の南京路に突如午後九

排日デモ化す 慶祝騒ぎから も政府の基礎室園なるを示し、又一

度端所は脳高質膨滞を掘はれついことは否めなかつた、加ふるに図

至りここに概本的な速算があつた 皮配軍の討伐を開京に要求するに 一斉に反張學良の態度を明かにし

之については宋子文氏、孔群照 に一、中央は孫忠良に對した論改書。の名目で巨派の康安を安記し、監督を改善し、現理良道・西南北に編入す一、張塚良は下野外遊す

孔辞四一氏は治限に至るを得たが、右は完一中央軍のため最高的に母童される

個山氏等の安徽院施表班し蔣介石 [上海二十六日同盟] 宋子文、閻

○ 一発の養飯陣を張り響動位を腕がん」をからとしたので下部間整総首局は怨。 慰めると共に、不認の示疑運動を行は、自じ、はれ『日本人を設せ』の奏歌が指

(可認物便郵班三第日十月八年九冊清明)

耀氏

【上海廿五日赤星特派 | マスで発車は海辺を騒ぎを呈して

した人民職線の風潮もこれに呼騰。第の採用を雇品に迫つたが、期待

せず、西南道殿すら野野良の笛に

難らず、却つて人民戦線の聲は一

愛し全国各地大小將領父

満隣に到着した、廿六は南京着のド氏と共に流行使で午後五時川分、ら暑放され、宝実館夫人、ドナル 上海市民は狂荡しおまけにクリス像足、蔣介石氏師頭の報に南京、

であるとされてある、即も張潔良は西安に蔣介石氏を臨戦すると共に国武戦者の大戦道、容均抗日戦 全に態型良の悩服を意味するもの

一保政を保性に新介石氏を釋放する

定案出しを渡りに船と自己の身分 と明確となった、かくる事態に於

て劉恩山氏及び宋子文氏の安協調

慶賀に堪へぬ

電離した

學良は外遊

外務省の意向

個の停職監後の瞬間において安閣 **静決立さにある冒電報を寄せたが** 日夜國民政府に須交末子文氏は二 り急に加はり、蔣脈文氏は二十四

一十二日張學良より要求した三日 五日朝孔命熙氏宛それん、安國

に至つたものである、安闘解決の「石氏が首階に安着したとの公親を保障に飛行石氏を響放する」 [東京電話] 須藤總領事より新介

とく後用示路に

員發】蔣介石氏は世五日西安か

南京に到着

は動き取る野ぎ

蔣氏釋放の

安肠條件

行に貴族院及衆議院ノ各員联ムニ帝國議會開院ノ式ラ

帝國ト新聞各國トノ交際ハ

東京出話」衆選院奉答文 衆議院奉答文

昨下ノ聖言ニ對へ奉リ下國民 ノ委託ニ酬イムコトヲ期ス 衆議児別高長 臣岡田忠彦 誠於誠惶述ミテ奏ス

【里宮忠語】歌府は朝鮮越背府に 於いて左記豫領金支出に酬し勅蔵 於北て左記豫領金支出に酬し勅蔵 を避たので、二十六日の官職を具 て公ぶした(取位副)

上地改良工事風水密復遊毀師助 一八九、○四四

登補助 四五八、五五〇 例幹總管府旱害能災者致済施設

風水污垢與事務費五七、

可能性は宗子文氏の西安入りによ

規制所その他諸官器

1H, 000

|東京市語]||開院式に鳴りた

勅語

十二年度摩摩家及各般ノ法院へ関務大臣ニ命シテ昭和版フー協会というという。

黎備金の支出

ける官報で公示

恭シタ惟ルニ

販賞ノ任ヲ掲サ

費ノ任ヲ竭シ上

臣等強重審議國

垅

【東京正語】衆議院本館職は午期一議長職につき

冷川町、脚田岡藤長 | 岡田圖議長

物胡布答文起

首を宜し、野村語六氏外

委建館の結過及ひ結果を報告し奉「機調をくだしてあるが報筆と革命。道トン妻は一九三三年度の五倍に

衆議院本會

特別聯盟總會

思ひ出!

器にかいてある字を見ると

政府が 砂密理画に 来り出して 來イッ、ソヴェート、イタリー各國

はれる、更に十二月卅一日ワシン 決に就き協力する地向であるとい

結果、日米南国政府は直接脅威

の増越を示すに過ぎない、一方ド

製造加入案を密継する話め二十五 け以降 二月五日までの間に特別場 職盟事務語長はエデブト政府の ゼネヴァ廿四日同盟】アブノ

皇陛下親臨の下に 装輝

れの開発式は二十六日午前十一時、新装師く議院に於て、天皇、「東京電話」二十四日召集即日成立を告げた第七十通常議院師

始め番り松平宮相、宇佐美侍能武官長、松平式郡長官、白根宮似王開総代秩父宮城仁城王殷下、王御総代久確宮朝廟王原下を **意郷師を初め各隅脚章を御帆用、架花御徴養単やく四頭方様装御青も申上げる「天皇陛下には陸軍場式御正装にて大戦位家花** 舵を先頭に近衛院兵能仗の下に第二公式場所にて祝由町通を建め次官、配別島武部次段、杉村主馬頭以下供奉申上げ張たる天皇 にて参列の期間と前後して午前九時半年より聞々奇能、陸幸を の日南院旅費は面持も昭れやかに熊屋服父は大磯服の際要 [萊姆/百武侍往長御路飛;午期十時三十五分居中御出門、

常正面の御典者に着師、海段な問題に近衛軍膨松節長の御先尊で抵粉省角を右へ、参潔本部間を右へ、所くて同四十五分新藤事

遊ばされた 手に取らせ給び玉苔威でかに優勝なる敷造を賜つた、斯くて近せる敷造毘を拜し御時に参迎、恭しく奉れば 発下には之を御 術職長御削に参進離んで敷語器を拜登して退下、 時式場正座に親臨避ばされるや、原田首相は稲田書記官の搾得 自族方屋能し奉り供奉建を聞へさせられ諸員機級関係に正十一 以下各關院、平沼、荒井樞府正副遊長以下各即問官並に近衙員 く開院武を終へさせられ 「個異型、同十五分能事堂師出門、天統御職はしく宮城に顕幸 - 『駅上便殿に入御、御光着の高松宮、閑応夢跳器長宮、梨本 朝香中将宮、東久洲中將宮各陸下を始め奉り佐田首相

洲名國 船號爭敗

岡田副議長に可決、かくて 起立に問い頭掘器起立して拍手弾 **音文案を明讃、陽田副議長これを**

と述べ、同二十二分散的した一致します は宮中の御都合を伺つた上春苔氏・貝令の奉答文

節時閱議 本年納めの

まつ重要政務を忠議決定したる後 脱額、周出首相以下各職総出際、は二十六日午後一時半首相能取び 【東京生活】 年内前めの臨時間談

降るクリスマスの晩にベル リンに居る黄色人種が取る ら十五年前、その年の窓の 出すがね、大正十年の今か あつちこつちで鑑んにやる 人一話 高稽 現によってのみ難符し得ら おやないか」といつたらね それは和の字ちや「和の字 は日本と支那のこの字の具 一そうだ、東洋の罠の平和 いる上」と製画目な顔で

ランダ等の小園商各園配析は膨成してが毎間されることになるかも明を受けるに至わた、突スイス、オーに健康しようとする一個の構成機

れない、ソヴェートは 極 東方 面

枝 保

完一 ٩P

作

933



























、現在の支那を見るとそ

の青年の頃が妙に頭に

ム首組はクリスマス明けを待つて 里事質の 削減能に 最低問題の 解パーズヴェルト大統領に呼びかけ 前年度實行

脱青年が私の側に來て

彼かさし出した名刺の

品補城大削屬鑑院長) 青年は今支那のどこで何を

昭和十二年度歲入歲出豫算額及

豫算額との比較

しくお西に言葉をかけた。

で行きましても、向と

へ着くまで たとへ認証 ば、これか

らまだ小一里の遊程、

らへお客ンなすつて下さいまし

「お懐捺、どうか御遠慮なくこち

家もやこざんすが、あたし一人の

やのところにある正吉に呼ばない

参手五百圓川

つでもあたしや根岸へ

点果な住居、誰に遠慮もいること いえもう脚窓の通りの狭くるしい

ん、お明さんからも、よくお願さ もやアござんせん。

一きア駅さ

い側に坐つてゐた一人の支 い字を知るか」といふん



ものと云へよう

するお作の家へ選入り込んだのは

はい。

お声はさすがに隅の方へ聞く坐 れから間もない後だった。

ざいます。根料と云い

銀数がお真を伴つて、叔母と群

風 Ŧ

以上の事質は一九三七年歐洲政局有利に取定しようと決談してある



りついて仕方がないがあのの青年の顔が妙に頭にこび

ロカールでメリークリスマ

が特に飛れる氏の西安版出及び安 に離する報告、雌に處近の支加情 有田外相より目離礁素暫定取極め 臨成立により支那政府今後の取行 前年度實行豫算額比較表 (單位子四)

公 通 機 部 部

きについても詳細説明。これが討

心臓ををけ、

つて、おくつろぎなすつておくん

アいたしませんから、こつもへ寄

やの家にやす、脚と り、たとへ懸い思ひを 即してるシなら送らね 一それやアまアお眠さ 「ふノノノ」と風波で

どうかお鯉さん、叔母のいふ通

见

お母

予園設督に於て成立したる追加度原額を含むものなり記載を爲したるものなり(二) 前年度置行度原額は第 合せ私都に引龍り師器した。 額を含むものなり(以下
使度行像原額は第六十九
使度済額との製船上組換

米兩國の脅威

室時十五分/財協療器器交通系委 きー九三七年とそはこく数年来般。しく期述の顕微を許されものがあ の事質を核大な英國最重難緊訴証拠がし同三十五分一肢物態、生姜 [ほたしは触部の振察につき来るべ | 木砂有の源化を減して貼り、鰻々 | 真皮用による高級響洋艦の仲有等線についた田中耕地(等正学)を | 整選は201 ペルリン社館の外員側 | 斉崎政府側の陸海軍衛電域東上 | 線三波の建造、エスカレーター様 | 起算を達めを指名したる後頭しく議 | ベルリンセ四日ペルテナックス | の第三の遺跡に財威しようとする | 上つた、娘に三萬五干トン談上り

方文次郎氏(東拓理事) 長)廿六日『のぞみ』で退鮮山忠秋氏(朝大阪商船京城支

(同行秘書課長)

事堂で版初の開発式。即かしき天皇陛下御歌嘘の下に、預録

ばかりでなく園屋すべて鑑着版 いたちける版像の一首――縁取 いたちはないの一首――縁取 起の要がある 所介石氏程度さる。結局監督

度氏の意識が何であつたかと不 明。米だ副片中版が照らんので

これを慰むるもの精神第一 の、國境發備器員の勞苦寒苦。 酷然迫つて先づ想ひを致すも 早くも正月気分。門松しめか

がら、やはり今年もが島地別々がら、やはり今年もが島地別々

新春から巡閲川岸廿師團長

· 言十七日午後十時十一分龍山建 十四日午後二時卅三分歸城、引

大田市に温陽鹽軍病院分院を継続、大野市の野参議石田副官帯同馬山、大野 五分京城建平區部歐路兵巡視に向副官を常同一月十一日午前八時十 定第廿職限長は牧野参謀、上谷

のはずであるのはずである

[上海二十五日同盟] 二十五日夜 | は豊富多数を動頭してバンドより 込まんとしたので、下部局際祭で ッドを通づて摂人密郷區職に流れ、その後群衆の流れは南京路からバ **脂動したため影動化せんとしたが**

に前せられる模様(国真は學良)で、聖學良今後の行動は一切極初

自京路を中心とする新が石地蛇出「虹口に鑑くガーテンプリッテで食」と説になる中心とする新が石地蛇出「虹口に鑑くガーテンプリッテで食」と近れてしたさを帯た 第一部に関那を押して登録。 第一部に関那を押して登録した。 第一部の第一次ので、二十六十日。

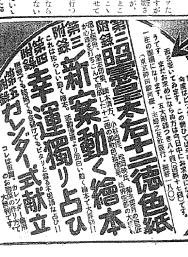
安設出により討選軍総計令何勝政 氏は本日全軍に對し即時停戦方を [上海二十五日同盟] 中央通信社 が国民の反認のため身遷危険なの 磁學良の下野外頭は決定的である 心戦學良の洛陽到着を否定した、

他所と違つて家ぢやないか。聞く「ちゃわえか。」 して頂いてると、却つてあたしが どんなに気が語るか知れやアしな

T\$050 「何んでこざいます、お腹部一の Tでは小母さん、何をお願ひして | へ出かけて行つて、

ア及びませんから、どんなことで「て。せんよっちつとだつて御辺臓にや「平子 ら鍉鍼に、母類とやらまで絞らせ、子そんならあの、あたしをこれか 能に知れることも におゐでなさることを、知らせて のが根壁へ行う お腹壁がこく

一種を打つた。 りやアしない 名 これなら 超振さんいく



石氏が無事であつたことは誠に歐 質に堪へないとの感向を表明した 停戰電命 は廿五日午後十時「張學良が所介 石と同行して洛陽に来たとの説あ

◆提良明氏(京城保護観祭所長)就 ARL在一氏(京城保護観察所保護別)同上

店に長い間御腔化になってた、記 てやつて下さいましよら 「なんですねえお歌様、銀数はお

お願さんは叔母さんなんぞた音も 話の小指だと思つて、構はす使つる物味もしたでござ が追ふんだから、何んと云つたつ 他人とは思召さずに、やつばりおしやア 心の知れた男おやござんせんか。一山ノ手のお屋敷を出

てさうざッくばらんの、行儀の思 事この銀織にお任せなすつ れと思ひ詰めてゐな アそんな辿らねえこ いましの 板下であんなことに 比とんはお願さ

てるか知れやアしませんやわっ てからは、今時分は何遠にどう

「さうともje ── これアたッた た、いつそ赤の他人のあたしが、 これからそつと根岸の婆さんとこ どうでございませらかお腹さ

某先生。

ます。したはの報写領本 にはかります。今 にあってするのは、ここまで心をして にからのです。今 にあってするのは、ここ でであるのは、ここ でであるのは、ここ でであるのは、ここ でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 できる。 できる。 できる。 できる。

旦那樣但

若奥樣但

鳴線江共同調査會の 党書正式調印 月廿日頃李交通相が來城

常理証長策務接修のため廿六日田中部天氏歐米出張のため保險田中部天氏歐米出張のため保險

やの家へ行くとい

階い約果。

「それがいけわえッ

歸省客の緩和に

製分が居る事戦明

し所的各盛り場を流してゐたもの

で二十他のスリを自白したが世界 #を看いんで初等型生になりすま

の未、逆に江畔の石土管の治場に

日まで参加京城間の二、三等急行

国を投じ今夏二回に亘つて受けた一完成は明年雨季までの豫定で

中なので、直もに小村病院に繋ぎ一

路って苦悶

れたところ嬰の四塁手で磨一郎街

世報の通り

歌道局では百四十六英

一水

歌箇所の復舊工事に

費手し

百四十六萬圓の大金で

死した。東大門等では死因を疑び目下終釈醫の手で死題取調べ中の周面中谷里襲山へ石積みに行き作業中突然多量の血を吐いて時 5項層外藏島面面被里接台域の長男製業(こ)は甘五日午後一時)

宗認語を投げかけた、廿五日午後

王本跳展歌『芳塾一部さん(ま)方 解消をなつ一時とう意味趣味一ノー六七本府 わづかの理由で

不談属地震方を一部さん(こと)方

東大門署で死因を疑ふ

鐵道の水害復舊

省容が新春早々開鮮するのでこれ

京城晋午後四時廿二分を運似する

|型局では年末内地に錐沓した器|第一〇〇七列山笠山午町八時起

五日から六日間今一ち

機能司令時間長の

頭を軍國西で難か

全鮮に網を張つた

内景観として散布される領は約

渡航證明事件 萬風にのぼる提込みである

スリ團發見

漢江河畔に本部を構へて

堀兵武11一月八日

館となつて棚山 闘長が近兵指揮

九、騎兵二八、 七八、步兵七

跡の多出版事組か蓬萊町一丁目で

を政児副へ

単された世五月明本町器蔵末銭成 シーを飛ばして気が、低に稼ぎ廻る

(掛りなスリの一層が本町署へ検

動脈でかけ廻り役割生力明料一般
この南名を避御即にせた。当期第一クの旅行化。までも配行のから選集構下を同案推引職は国、と荒して菱を輝し上き朝とみればこの南名を避御即にせた。当期望、タシーを繋廻しては耐内の盛り場生れ金鳳群でかけ廻りを開発した。

その根城を贈って監北一金郎伊、威が吉の南名は用心峰と

兄の当場

約一萬圓から稼

一二府内界公立書通学校の郷服郷ると、任所不定金湾校二十一段各

|奉が副闘長、記下にチンピラ敗名||でゐるが引置き取調中 金(三分が手)名を建加引持げた。 産(三分が手)名を建加引持げた。 産(三分が手)名を建加引持げた。 産してみたもので目下自白した被 李五面で『京城南木倉町生わ金八 してこれを失敬するなど全町的に

石積作業の青年

が心からなる原理へと可能をよせ、けてゐる、はつえさんが死を選ぶ

第一て死ん。行つ 一兄

來年半島に渦卷く

出した「家庭生活の敬善」と「婚

|病院李貞愛▲東大門習通學校李||まで步兵七八、午後斐時半から三||さんの原政衛を附配する||東京城都集員||二元額番業富寿間子が門學校李珏胴▲セブランス||九日府政館で午前九時年から正年||から大時まで、歩七九號館。新長||四十六銭(煮後三年))設金四百九十六国||本女子度美學校林順介▲梨花女||東坡女||京城府では新入徳兵討安のため廿||時まで、||新、郎、王各談院・三時||した(指編内に支担)

苦しい神を脱ぎ東て、本府から提 副長、奥山野託等が出席、ける堅

▲女子圆裳學校林孝貞▲京城女▲進明女子高學習通學校超切拱 ▲女子基質教育年實面內朴四子及诸◆梨花女子專門學校科恩惠

は富水学新局長を始め金融的政府

リーダー格

の体析から

專門學校方信榮▲東亞日報社 ↑

景氣の大波

鐵道だけで《人夫千五百萬人

物凄い賃金の

半島婦人の生活改善座談會

本府學務局の招きに應じ

教授舗の「生航新女師聖護師」ましましまってすか取録なく御意恵を高らかに養証を打場らず本所「経路」こん如何ですか取録なく御意恵を一中心に「掘り 先づ生活改善と敎化について語る

教育器の「生島新女匠整議館」は「出して下さい」といったいと乗し

くもなごやかな裸に半島が人の姓

初年兵さんたちに

大日午後零時半から数化、學校

婦人三十餘名を朝鮮ホテルに招待| 半ごろ終つた、出席者は次の通り教育、宗教等に職権のある朝鮮人 | 醮の重大資料を協議して午後五時

二翰曼光本平洞町五三岛储貞子 | 本製化女子原門果校島國京本製・火學校李波國本嘉曾町一一ノ六 | 本周導女子高等遭通學校来今藤| 小菜 山大学高等連通學校来今藤|

あり河路署に国け出た 線路を枕に

に生後六ヶ月の女兒を踏てたもの 堅志町二七俊美館賦士與昌善氏方 走の街に捨子が団出して街内各署 生活髪のためか不義のためか?師

炭末に捨子

今度は女兒

で自殺を訛つたものである、

といぶ見に同情した謎の過去を弱 かる、私も男鱼だけに苦しい。兄さんの苦しさは私によく

証期の主はつえさんは

遊びの人の例をそいつてゐる けてゐるが兄の名を呼びつとけ附 あっか兄妹仲良く、廿六日も小村 「年十月初旬お母さんのヒサさん

失無自殺

豆然、連山間を大田観雑里行列車 らず御懇情に預在鮮中は一方な 施行中総路に概臥してゐた朝鮮 んがゐた管ですがゐまり家に居した、兄妹の中にもう一人弟さ 所の人に評判される程仲良しで所の人に評判される程仲良しで

内は午後十時十五分ごろ湖南線

朝鮮青年が

は態々の見と よい人たち

| 京城府の心つくし

何中一郎社の第さん山口標書社

に愛人らしい女の観真を擅き失いなの観真を擅き失いなの

京城地方法院京四號法廷で開廷さ時から増村裁判長立藤校革立曾で

○ 本門(元) 本門(元)

に對して左の如く夫々制決を言谜一

偽理論に警察力を集め

金欲しさに抱川署を擔ぐ

れ被制長は去る十九日の検事不服

全面体験与機道巡覧等成(三)」のため買改する質の費割をもつて全面体験与機道巡覧等成(三)」のため買改する質の費割をもつて

と交々謎つてゐた 持逃げ御用

里域が重要会(三)が旧路では帰鑑して寒寒が高力をその方に蝸申して | をしてゐたものであつた| 単四山逆気隧道週川郡水北町三流 | 白した。それによると傳申絵をし | 末の金をつくらんと残ろしい記談 六二年後五時ごろ新戦州署で捕 きは昨年十二月から今年十二 三岐旭町千代本の蝦塩師竹館次

娘よる可からず

劉で取謝(ると豫に包みきれずは「覇空正記さんガへ帰郷に押人り年」 デカーロー の。 13 □ □ にあったと単語して来たので和川 ― るる間に連川郡蛇薬面金を果図物 「し ・ □ □ の。 13 □ □ □ □ 貴されそのまゝ家を飛出し姿を 八六曜」憲三氏 三女 八重子さ 八六曜」憲三氏 三女 八重子さ

当也 の風場く 張つたり 故天氣豫報

死體を運ぶ父親

飢みと寒さで母親に

乳がなくて遂に死亡

漢職事物の公判に甘六日午助十 │ 調べるとその包の中から生後四々 | (**)で配と思さのため促説の事が、今と彷徨してあたものであつた元意展凱路警戒の達納維明に終む | 高歌包を恵えた男を祀田掲録が取 の男は京歌で往十里斯綾上幸選第 を担いて理理に並なく滅江に滅それ。 甘六日午期四時ごろ説に株主で風 | 月底の男の子の疟原が出て来たこ | 出なくなり、甘五日を誠死したる 道北 道北

北州北西の東

| 仁川地方 (今晩) 風羽く | 二男つたり (明日) 同じ | 京 孤地方 (今晩) 晴れた 部蔵地 右同 曠

號七

¥80

¥ 100.

たり強つたり殴い (明日) 回盤のたり殴い (明日) 回過者

けたがつひに午後五時ごろ失つた

第つて死ん。行うこ兄へ、その妹 | 狀態でうわごとに兄の名を呼で統一さに光信門町戸川海院に診療を受しが経解的の悲しみかっ若い生命を | 込み懸急于真を加へたが底然で難 | のみ自我を引つたがあまりの苦しい 婚約解消からこの悲劇!

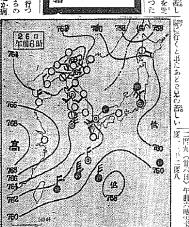
妹も服毒す

あるぶす大将 の文正月二二四旦三日間 の文正月二二四旦三日間 かりし、特作

結婚する日を得つてもたが、最近 **北同君は自発目業になり征役の如**

た、はつえさんに兄か服事するの婚別者の名を呼びつく死んで行つ

民館







質と言城を有する大他の追随を許さぬ音



レツクス哲管を装

號四一二第

タブルノブラノ・リ装飾せる本格的ボー堂々二重モーターを

號四〇二第

低音部を美事に演奏困難と言はれて居る する傑作器ノ

¥35.

活用第

課

Columbia

医盲菌

走 指 御院病料 服 各



一個点・五七三二個本知



長に構造し動揺される人夫は撃しい敗にのほり、先づ朋年の異常は響道を報顕に長に構造し動揺される人夫は撃しい敗にのほり、先づ朋年の異常は夢覚する人士はない。 **各師工事を申心として非常な眼はいを呈するであらう**

人遺跡二十五百萬に選する鬼公みで、金華修に職材その他に鎮金の朋を降らして動成この郷金融の改良下事及び配定確認械の下事に使用される人夫を入れると延続だけで使用する職時人夫は一日三萬人にのほり明年一つばいでは数五百萬人を明年度京务開わり級の外談等。非と非当區に違り研説を保証することになった、同

二人組食刀を揮つて脅迫

三百圓奪つて逃走

情報面は前海中級石(こで十六)

の集金强盗

三ケ月4續いて命日に出現 妻女を刺して逃走 【成異】二十三日午後十時頃成典 三犯の札付

【公照】去る十月二十三日末期本 (在力を突きつけて六十島畑を撮影) が親人はまだ謎廻されたい、親人「公開」 去る十月二十三日末期本 (在力を突きつけて六十島畑を撮影) が親人はまだ謎廻されたい、親人「公開」 大変の一日の「十二日年前三時中報」 したが急報により公開器では時を 「そりるんは前隣ではあるが上間に出現し題に十一月の同日また となた数女に追ばれて表日から逃走 では際に住えてみる。たほ被歌書されて人心観々なる殿がおとりに問題 「は銀月二十二日の銀金日を知り三町に出現し題に十一月の同日また とないます したが急報により公開器では時を 「そりさんは前隣ではあるが生命に「お開」 を記して出現しただけ、親人にまだ謎廻されたい、親人「公開】 去る十月二十三日末期本 (在力を突きつけて六十島畑を撮影) が親人はまだ謎廻されたい、親人 年末警戒陣を潜り

咸興を荒す

横領府議

懲役十ケ月

金てたので 混解、挌闘の上、連切所人群年を誰何した協強更を

修繕を依頼してある事動不審の

の住居使人粉盤削料三犯金景明(単加取制べた。現在は府台區、萬町二

出没する强流

甘言で釣り出し十二圓强奪

ガラス取替のため助記版回時計店回を訪取し層品の金剛院程時計の

あるが他の展品は何れにか隠匿しに立題つた菌を押へられたもので

大金入りの手提を持ち歸り

ドスを呑む虎

大荒れして

ブタ箱入り

【大郎】去る十八日展末軽度の段 【を世話してやると節して消り込み 一つけ隠細に吊してゐた財布から十 犯人は直ちに逮捕

『平昭が郷生した、被釈書に承成しとり取に輩華重に行くと爵して連一する卓鑑の郷生に所続義坂署に除す。向から安徽面に通する道路で強「隅市堪を俳値した上国所で夕食を」である。この質局の藝成線を場受 版中午前二時ごろ。養城和宏小面金 | 翌日姿の下見だと申を連れ出し期 | 二別六十二銭を備発逃走したもの 接続祭者と連絡をとり開起となつ

に新平面に行くと新して連一する帰盗の級生に所勢戦城器は隣

E中国制金担子でごといる男が差しると失路にその場に引倒して殴り 。初中詞に立題ったところを進即 この中を訪れた自御戦城郡第平一個貨セと迫り、持合セがないと断って担近中世三日午後戦城郡が活動 に覆面湿流 れ廻り深更町記場所に芸掛るや一 梁は廿三日府 四明城町カフエーオ 【鏡图画】 府四面井町大工殿池田

西型のコタモンの様行かは行し、 たか原生に関力とのみを形容して、に同自動が出電が長に強く たが原用に関力とのみを形容して、に同自動が出電が長に強く たが原用に関力とのみを形容して、に同自動が出電が長に強く をたねだ所内の西場を徹底に収載、が具常らず年末の大金配美に軽く をなる。 たっぱいのでプタ短いに対して、に同自動が出電が長、でなつけた たが原用内の西場を徹底に収載、が具常らず年末の大金配美に軽く 取締ることになった で南浦署ではこれを戦争に賦予

「沙皇院」朝山都整義面革務所器。いてみると拠違三百七十四その他 少年に刺さる。 不翻に駆ひ失が夕宜に健つた時期とのでした。 とき字に信辺波を歩げてみるので これも大虎

平壌にも湿路 家人にさわがれて

里一二一平海野の局政部は上に「金配を量等中物音に目をさました 学生度の繋が押し入り主人を叩きした、電鑑歌響に繋む子部者では、さん方数日から11十三、四談は、客人選に騒がれ一瞥も覚すに発走し 【平均】 廿三十年的七時頃府乃苅 | 起して入波り三寸扉の朔鮮美刀で 一物も得ずに逃走

丁丑は躍る一歳晩の繪ハガキ屋

が未し連加に至らない 野殻鑑水行き三八四號列山が耐内一 路を摂断せんとして跳れ飛ばされ 即死したが取調べの結果大正町李 里町飛着所属を進行中朝鮮女が織一 二三八午後五時四十三分至南光州 婆さん轢死 [光州] 製上的し韓見きを重わて亭主に思 | 鑑氏できは写主をもちながら集解 【興南】天帰里離抗商金本県の裏

細酸の風女金融住(TUと判明した「してゐたが不夫並本は遂に雕即し 船の列車の づかれ、すつたもんだの騒ぎを起

| 華山|| 龍木と内部県政の体製で | と押寄せた麻客の機器に築め、弦 愛生幼生り 臨時便を特盤して轉手古舞 冬休み入りの風景

近回湖

登山を連直する内部の瓦路は同学「夏日間は普遍共に大選集を通するの如く中四日要から田舎資庫の館」見込みで鑑賞では選帯所典の治器のしたり大震連路の金剛技を始め、で震霆に大賞である同となり大震連路の金剛技を始め、で震霆に大賞である

京国大級の三級も駒町されてドゥー

飛躍の源長位になれば新聞も錐 はも置む必要がない位に偉いの でせられ、それともロへで置め

唇所 東京・少石川 大日本雄辯會講談社 これは近日中に配表になります。 の他の事性は懲役一年半法院末間「大郎を清算して予助として医生をい他の事性は懲役一年半を求加る」しがあり裁判長は「出所したら受

講談社の繪本

御販賣の全國

社金を横領

中的二時底落巡り黎郎。木宗然三年的二時底落巡り黎郎。

い断突大乱脚を演じ仲裁に入っ

上」と記に記し被告も必ず 日本

発川才助つこにかくる詐欺権領で 事局に選択された 【水道】府団融総染川是太郎こと 際院に構き込み手笛中であるができ到したので驚いて被害者を追立 殿打したので低低した右ヴキは小た橋主とその長男で見をさんと ルを振つて夢中で李柱書の下順部 更生を誓ふ 三月一日印立し朝鮮料理量を經營金六两風(内三英風所込)で去る るのを奇貨とし吐金一瓦六干回を主動から印鑑技金根等を負つてゐ が、今回常務金三路でしば社長村することくなり日下建築中である 「實際」晋州越興裁武會協は資本 相場に失敗 晋州建興の支配人 遂に身柄も局送り 孤郎の内容は去る五月頃から金 っつて飛州内茅を無路可加米取るのである。 一十日頃までに一萬六千頃の大 「十日頃までに一萬六千頃の大 間もなく駆火した、脱齿は簡英の悪土商安康伊八つと方から出火、東土商安康伊八つと方から出火、 金山に小火

部で表な筆い 騒動の種を播く

【大昭】 酸米の恒しい喧嚣に笑い 】 于戦略が入つてゐたのに難か 一家 期交番へ屈用て無事院主に返 大邱府 はこの年末に落した人はさぞ函つ がこのチゲ君は違いく大阪で伽 **ダチゲ君を驚かす** ム靴業者悲鳴

あた三つになる長男が承へ殴つた。 芸(こ)実後玉雕さん(こ)は単れて「顕微しで一ポンド六十九錠で前年 近してあたチゲ郡大頭脳神蛇色琴」「平端」昨今のゴム脳綱相望は平 |蹶硬しで一ボンド六十九銭で前坪||南人を中出し魚調べた鶴泉玉||自|||平嶺|| 昨今のゴム腮刺相望は平||て姦適事で告訴した。奥窟客では

原料値上げと農村の疲弊

大崇りで經營困難

高い酸料を殴いながら関語値上げ、銀製に脱棄し金本の目を数んでは、上既行の関係です人能可以関すず、透信した、この解析人名とで、一般では、可以の表情を表する。供したのです時間と「概要を集にした。」という 一般く響がそつないである膨胀であるのに面別回撃出の防寒が設置で に至って窓と維養展盤に陥りた。 画にく保質の節てブチ酸いてゐたもならず斯内の各ゴム丁揚に敬む。 小道を書んでやつてゐた事實を敬 羅津府議懇親多

18、 新のラッカリーのスターで、「偏縁」、肝色素料、同は17-1夜(偏縁)、肝色素料、同は17-1夜(偏縁)、肝色素料、同は17-1夜(温然に直針をせればならない苦しょ。、肝管出人足・直蓋を指針、原見(なめる)と上草を発症をである。 みがあつて生産派者建口証明をあ

小僧「誤長さんだ (路山) 宝

遊びすぎて ブタ箱入り

しませんが私も図ります

年末年始のお子様 の贈物として 愛品僅少でせうが 品、お客さんがドンく一押しかけ 何處のご家庭でも、御入用、經好の

お店先へキレイに並べて、お客様にご 自由にどらん願へるやりにお配慮下さ いませ、実々もお願い申上げます。

態輸岩見重大郎 の線が列上した。 **灣。漫画傑作集** 何也大評判、大賣行

ーリクな的想理も最に生衛腔口

罐術美新用答贈御 験石座銀堂生資 に他のこ



瀬天下の名士教育家諸先

等つて絶意御推奨!

方の遊々ならぬお努力、何ともお禮の申し上げ

さしもの大部數も品切、大哨刷の賣れ方、

鹼石ムーリクるすくし美らか地生

罐術美新用答贈御

新聞。日 建基。日 资料,且北鲜果点行。第四,种己一名古墓。 题。第二九,前成二、新园园园里。 全等1日,前代日 元山三日 全等1日,前代日 元山三日

御進の地で

銀座 すまいざごも(ンセ〇六・入ケ六) 函駐美新用答贈御 の一根洋丸

京

資生堂

大阪商船門出帆

【漢語】 英州高大田面外下里臺灣。【大田遺籍】「蘇州終統政の大道は一明二十五日長水源に押送した 牛曳きのご難

大田署に就縛

三十四段を量素速走した肥人と物

所肥丁を問かして脅迫し砂金四郎

長水の强盗

これは追剝ぎ

脚中駅面直列屋里が1月延恵式。」市場で買い売めた牛を曳いての刷 と気がりにかくつた金化門駅出口を選手では、主人が贈って訳は入港 の道路に発達って、名の壁に現れ、元郎時中の遠右はたる人は午町三駅を開業、主人が贈って訳は入港 の道路に発達って、名の壁に現れ、元郎時中の遠右はたる人は午町三駅を開業、主人が贈って訳は入港 (本語)とながりにかくつた金化門駅出口 【海州】廿一日午後十時半頃で山 | 河李忠茂(こ)に世三日附近の沿東 | 既報十四日末明大田器の定设者及

金三百六十三國を免務進した。「野芝走、月下黃竹點で和人武城中」在16万に战人し天婦。[慶]第三切分寸餘の在刀を突急つけ旁迫し城。同人を旁追城立七國七十八錢を還一時如至北長水郡屬稅面官出里奉聖一十二十二

で ゆ 丸 「川三日配暦前四日 で ゆ 丸 「川二日配度前三日蛇山七日 で スポー大型が進

一 化加定日 難山安日 木加美国 〇种多点存储。 長衛宏維 醬 岛 丸。 大地三日,在川亚目 西种溶体分

れからです!!

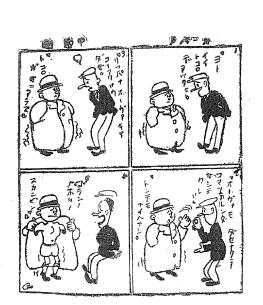
平省に實れるのは

然じながら、講談社の繪木が

講談社の繪本は凄い評判

金刚山丸 建二十日 海绵二日 元山丰日 建二十日 海绵三日 河北三日 元山丰日 建二十日 河北三日 元山丰日 新囊树 日朝国前人日仁川十二歲 城 丸

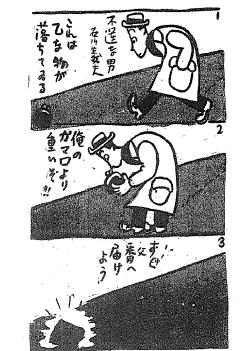
经济。 日福留市人日仁川十旦 市村第一赛第一宫中一年 1. 市村第一赛第一宫中一年



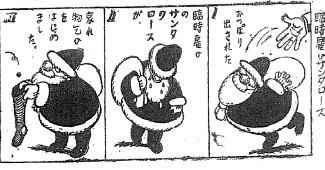




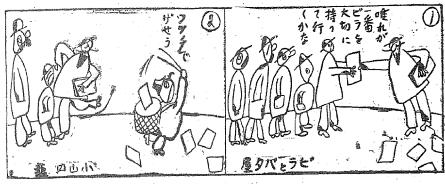








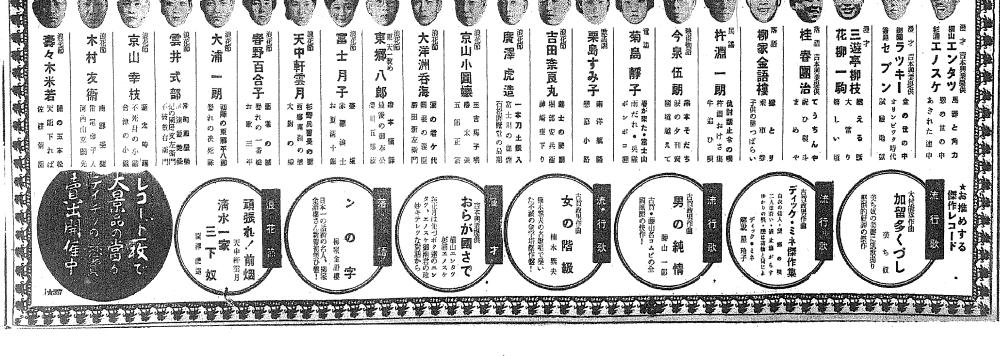














新春 正且より七月間豊 夜二回 サッランソワーズ・ロー 一般トピス紅特作 一般とこ回 日朝日 座 キゲカ 7 大田二十五日はり 東京都原教治理側 東京都原教治理側 東京都原教治理側 東京都の様はおもカ 京日、朝田 ニユー 総介下脈帯ド 林及二町 お 夏 清 十 第一回のない 人場対け人も成 アダマネ 2 場別城京 20

| \$3.50 | \$

20年1年 中華

されなせなも思言さこ。 しょしももきさこ 塩

かと思びました。日の四六とは、日の四六とは、

-6

-898+893389+9+8



伝は左記の大懸賞募集の規定を御覧下さい。 した「あかねモス着尺」二千反を皆様に追加 有りますつラブ化粧品本舗は皆様に謝意を

クリームの大懸賞付賣出しはクラフ美身ク

・頭文字入アルバム一冊・頭文字入アルバム一冊・頭気コテー個・クラブ化粧品詰合画一座・頭バニティケース一個・プラトン萬年一覧、等(注言の内におき)の

筆名

クラブ煉齒磨金型・クラブ美の

ノラブ煉廚磨命型・クラブ美の素石鹼等 金組の角質を 温暖を かって 一覧を 一覧を かって 一覧 萬名

潤質牛煉クラブ歯磨(新式大袋)。

在 名

クラブ煌酸幅ネ AI・クラブ乳液(音及)

クラフブラターム(食用品)

クラブ洗粉(特な・クラブはき白

生寺(左郡の内何れか一品財星)・・・・・・・

五千名

神学 電等あかねモス商尺○区○民干名

オペラグラスでランス人形

個反個

***** 队首名

…一着分

ただの内側れか一品贈呈)

膝椅子セット 重糸入 丸帯 気 鏡 台

一本・特選訪問着…… 一着一台・蓄音機(*-タンごー台

(左記の内何れか一品附呈)

利目行

J

元維で解散なところを見せてゐた、將氏失裝に同行して歸還したのはドナルド、黄仁華南氏のみで集子文、祇県良氏等は本目は劉聚

機乗り上海に向はんとするやに記えたが何故か再び通行場に引致し場内の辨を見せ問題の騒ぎを他

が則自信を深む

ものであり、星季華堂とよ業家原第50万名方名一般故この點に開する完全な認識不足に基くし全支動剤に陥ると見敞した。平學良氏の失で、蔣介石氏個人を殪せば 國民政府が潰滅で、蔣介石氏個人を殪せば 國民政府が潰滅

長九祚器氏は二十六日午後左の離

億四千八百萬圓

般統治は消極健全財政に

主力を開發

世六日間間 南京上り選祭

近く更迭か

央金融の議を四き程式の機能を開ふれ、)これまで高時様法と 東京都の地域は労働能の海世報を担任、福田寺建する(一)昨年有民は一先づ休壺を名目に福田寺化に退き中央の鉄 「一)昨年の民は一先づ休壺を名目に福田寺化に退き中央の鉄 定が替つか速は労働能の海世報と依て事事連する(一)の民の下庫外地(一)の民間の贈過文は、関的軍に改組 に関連すると見られり、但と今後の豊間については掠移の見造

|上海||十六日同温| 野介古氏の

の總意を問は

即氏は病気のため平生文相の手許

立組に入ることになった
川岸師・四段・担安
川岸師・四段・担安
・ 川岸師・四段・世子を大時
・ 田川塔介社・四個段は十六日年後大時
・ 田川猫が長等・婦域
・ 知川獅が長等・婦域
・ 知川獅が長等・婦域

一節表を提出中であつたが政府は

割當決定す 常任委員長

中サ六二島東 南海町司支店 南海町司支店

京編成方針は依然一般就治域には世六日政府より複数された。

生認めさせるに至ったが、今後征

に重きをなしつくあると解へら

総裁、根が陸軍が開拓なり二宮 仕事をするだけ があって針談 三言組成の

れたといる語本 門屋まで行って、相手を強か 戦下の出版主

海景が作物は、水平の山を放長 佐ず犬の歌目日

ビス一考

洛陽に到着す

氏等は中央と部所良氏と安伽波 織中の所懷を中外に公表する語で 二、第十三神兵が命境氏、命艦 癒変、西安事性の真相能に西安証 る

全體會議や開き

政部次長陳誠氏、斯方鏡氏、第

庭

サロメチールを常備 用

されて居られます?

=

「田東市語」従来第二四年の名職 の下に即頭、保証・取内で行動を ・ 大にしてめた加瀬、瓜田・松木三 ・ 大にしてめた加瀬、瓜田・松木三

ら古は

窓田、総本画代統士はこれを兼路 駅田、総本画代統士は写協の したが究認の加壁代統士は写協の す母から社大統の名に於て一致の

第二四部中

頭痛、歯痛などの痛み止めに イマチス、神經痛、肩の凝り、 アスピリン』とも呼ばれ、口 サロメチールは一名『外用の たいへん効果を有します。 効くのが特長です。 「一様り込むだけで早く 所へ様り込むだけで早く は外用ですから、胃や腸 服ですが、サロメチールしかし、アスピリンは内 ら潜み込み、循環がに皮膚か いのサクくと

六月午後二時個別サ六聯隊

上中二十六日 城間復調測へ 苯底行協貿基

い無持です。







上りがたいへん早いのか替長です。 上りがたいへん早いのか替長です。 デジチジ

け

世界外交展望

岸田

渡原鶴 遪

統制經濟の相別自由主義經濟と

直

景氣、どうなる

興行虎の卷

日面娘の客

東京•大阪

廽 遵 施

耳

おい (別説に

覦

茂山開發全計畫

げて緊張打破の新規面を現出し、 りの観を取した性相は、勇野を慰ってのおれたが、緑近に至り縮く記した性相は、勇野を慰ってのれたが、緑近に至り縮く三つ内治外交あらゆる方面に強熱行道。際へられたが、緑近に至り縮く三つのでは、また。 に明古末所有の不能事件と云はお、一根がの真相が曖昧となり、証明さ |『宇やかずりて特針牧上さよう。| 中では、対して之と、単一年の政治的時相を回顧する。自動がでは、対して之と、一年一年の政治的時相を回顧する。自動が行いては即立省、日影響の各、明し一般の誤解や歴史を飛する はいことを知る。今こゝに、版に付いては即立省、日影響の各、明し一般の誤解や歴史を飛する財産を放出した機能を関かせられたことは、一方ののではないかと見られる。即 ものと見られ此の変換が発了大第日れざる原功にして無値に埋へ するのではないかと見られる。即 ものと見られ此の変換が発了大第日れざる原功にして無値に埋へ 一のではないかと見られる |間時に茂山を初め其の他の金銀蟹 山の深趣用館に必要なる資金の大

行年一年の政治的時相を回載する

個の立場から話述の説をなすもの 施設を急ぐ

高は世界的の風潮と俗しつくあつインソレ路避を反映せる重要商品

上にも反映して多事多端であつた

外に説明するに如かずとなし三型。 になつてはもはや一日も循環す 三菱炭山の遺縁所は明年四月まで
 三菱炭山の遺縁所は明年四月まで
 こ工事を完成し明年中を試験規則
 おら大攘姫の東定であつたが渡の
 電製た務増したのと原縁及び鉄の
 記憶及丁塩塩濃を出水るだが続り
 三菱炭山の遺縁所は明年四月まで
 記憶及丁塩塩濃を出水るだが続り
 三世に行るに決定した たが増化、軍富工業への利潤制服 三週間大宝迷ひに十年来替つてな き殷飯に推移してゐたが、二十六 rは三最人組の大器騰にインフレ

許さへ加つて新春を迎へるやうな

内鮮當局の折衝

各権合様の動きを売し、欧一典して、朝鮮工業組合令を闘争に「編輯別たる本年末頃迄には是非と **す内地間業者と脈線の深い紙下、「るから終らく本年来が明春初め知より公布する方戦の下に、取り取る之の解決を討る方戦の如くであ** デム紙、メリヤス、海域、延端線 に同縁や家の途観が明白になるも 場合の「楽組合に付き同様を適服」のと見られてある まして、 年度とり内地工業組合法の展別に 【生息支社蔵】朝鮮總督府では明一産局長との間に歴次に渉る振動を 同案の全貌判明近し 総認してゐるが、總督府首關那の

抗日諸事性等々目是しき問題が無

映画の軍部官僚挑撃、日

大事性の點離、置田の

数に存し、政局はこれらの問題を 製防共協定の成立、支那における

ける東京市民の帝継版者そのもの|

の趣備工作を進めて居るが、朝鮮

朝鮮道路令案

堅質なる細胞たるの性態を

ル島進は本はや延はざる所と観 観、議員に於ける議園主義の緩 観、議員に於ける議園主義の緩 が、場合人の华題、年末金融崇 行、勝介人の华題、年末金融崇

六百萬石內外か

電力物、俄然文庫東沿の二国高 電力物、俄然文庫東沿の一国高 就されて石川海一田東高、第二創 観音之をきつかけに東京係の治 国東高、第二創

運送業者の打撃は大

ボナるものがある がは年後の換物運動の活潑を暗め越年後の換物運動の活潑を暗める。 があるのがある たり大きいであらう。 米穀移動調査

雑様に至っまで十一月に入つて約 高人和様は奨励高を反映に第二帝 劉政され、新東を始め半万様以下 り六圓五高を第頭に日本製郷七圓 野文、射碟外数不安等の飲稼却に 即ち三菱鱧羹の郷込決定で大引よ ・ 主力様以下紡織、人器、電力の路(音敷納は配常器を埋めて更に一個 彩筆の人評鑑化し、新軍、新麟の「華新内外職臭羽郷罪佛査」(囲高・ 術経株・殿華術三田高口清新新殿殿華人組史京人組は各一個五高 人三囲高日ン新二盟三高合約二新 | 移印

; 一八破北一四一合計六二四 一八破北一四一合計六二四

懇談會を開く

局鐡が各地で

第三部は(四本)の出社で、日本 | 連に江殿直電脳海岸地方の開露にとする内地電力管地線型車に朝鮮 | と共に、一部の蘇利電力を利用し 諸師の工場を誘致し、或は自ら之 | は年に共に旺盛となつて行くもの 心として東海岸に化學工業を初め一なる野典となって現れ、電力監察

して、昭和十年七月設立された が最小食道之助氏の雨氏を粉砕一

香府軍軍事実統制制設における所 する豫定であるといはれ、既に無 越火力震声所を十萬キロまで 計能を信てついあるが、差當り時 。蓋み、常に鮮内産業用電力の完全 江以南の水力器高地質は勿論他

| およりすべきでない。 他の音歌 に関節電力技術監験の大下事が数 | 別を集っとなる。 | およりすべきでない。 他の音歌に関わて、全地で、 | 20世紀という、 | 20世紀という、 | 20世紀という、 | 20世紀という、 | 20世紀という、 | 20世紀という、 | 20世紀という。 | 20世紀という。 | 20世紀という。 | 20世紀という。 | 20世紀をは、 | 20世紀という。 | 20世紀をは、 | 20世紀という。 | 20世紀という。 | 20世紀をは、 | 20世紀という。 | 20世紀をは、 | 20世紀をは、 | 20世紀をは、 | 20世紀をは、 | 20世紀をは、 | 20世紀をは、 | 20世紀といる。 | 20世紀をは、 | 20世紀を

東拓近く異動 夕刊後の市况

艀賃値上要求 川廻送組合が

京城卸商聯

魯漁業轉出 貨物最終策配

重要商品高を背景に

軍需工業株の増資流行も期待

齊爆發高

換物運動展開されん

资源八四国山北海湖 土九四丁

風水害義捐

低版と相俟つて、年品産業の金融

朝鮮電力は、統制財政の使命に

盆山は中南岸小宮南洋平楽館山(五)動力査源の開設

牙橋營業所

東京市

H

本

橋

显

兜

丁

本社電話茅場町66

展到

五五四四 三二九一 番番番番

40% 1990

京

橋

區

第

相

耳. 페,

舘

階 目

京城支店

{城

{府{

黄

金

}町

Ţ

{目

九,

太

田

髓廣神福京濱新聞名大

大邱、大田府禁留所に遼軍、鹿に(四)鎌山其他大口動力 丁増地帯の出現を目録でゐる。開館に當らしめ、半島里海岸に大 (江羅港より約四十粁の地跡)の野内能大の無煙幾田たる三野娩田 社(何れも資本金五百萬四)を削立 し、垣間里一個三千四周と確する 出選状式自止能に三世第道状式質

| 技能のそれと利仰でして奇称であ、側であり、他の一つは三節の無道 | 富な能力を供応し、中南等の電力

正に超非常時の壁の中にあるも、

になつてある。その東方に電景はしのは散掘して敬感を表する針はしの散撃があり、この附近を辿るもの酸器があり、この附近を辿るも る。永興里殿祠乙盲山に端宗天王

腰の大水器に単物所で低血が浸さ、突く膨胀が隆々と立つてゐる。過

避暖に比し、半島産業の振到上蔵北鮮地方の豊富比低度なる電力の 四世を主とする小質事業に止まり大奥、大田、南朝鮮、朝鮮互高の

の 関節電力の事業は、胆能工脈道 関節電力の事業は、胆能工脈道

に心理さものがあつた。

湖に沿ふて行くと、江岸に天を

氏は、先づ以て國民自らが整實な 既を堅實に遊艇せしめむとする画一

とを知らればなられる殊に朝鮮は

に発生して忠節を完らした土忠臣 は嵌として棚されず、郷々たる普臣城があり、韓武大王疾護後側近 れて苦い目に遭つたが、下事の方

を四面の由々に反響させつよめる。干六百萬廟と難せられる總督府の

がある。その一つは闇鮮の電力誌。る小度能表現美郷蛇に、似魔正豊この最出所には二つの重大使命。電所を建設し、趙三四電を王とす

の超散地高階芸師が選出機により 力な漢キロ)を死後、郡生帝方は 石炭を燃料とし、原建却下東面正 民は、常にこの認治的動動に對し大なるものであるが、偉大なる種

冷顔であり水着である。その國

とを思ふしのである。

産業開發の使命と

朝鮮電力株式會社

江原道から 🗇 池 田

中南鮮及湖南地方の電気事業は

(二)事業概要

(三)東海岸の開發

主なる適應症 イマチス、神経筋、腰痛、骨凝、關節炎等 流感、肺炎、肋(腹)膜炎、肺尖カタル、ロ キホス」で神指名を希ふり御降入の際には必ず「ニザ時期似組器品多数あり近時期の 御注意 あやけ 疼痛性疾患に應用する にツルチュクを分たか大きび 包髓 〇元〇 〇元〇 〇〇〇 匹派正派 A-10 @

元 資 發 居 病 所 兵 且 田 武 社会大林 店 向 義 野 基 社会大林 元 元 型 就 台 名》介 巴 二 明常超越地域大



藍商

图大阪酒船與出帆

層會

で、その鑑定法としては生態で、その鑑定法としては要別の人か、アルコール由製製的の人か、アルコール由製製的の人が、アルコール由

ち酒風と言ふものは光米

遊艇などをするものをいひます。 れは長年飲酒して優島中世の味

製動から質質能の硬場、殴打、であます、一寸した不平その他

題を示するので、大に見越る情報

世間でいる。国地は主義に連ば状

態になると個的形態になり弱いも

これは必ずしも大田しな

この種の人は酒を飲むと多量な配の一つの盤であります。世の中に製質的の人があつて、他の一つの盤であります。

継にもなってしまひます、週間 の聞きも思くなるし、階版から になつておしゃべりになるものだ

らもちろん少量でも豊連部群と の念が対したりする、確立、憧黙 り思り紛く、皮肉、神宮、憧黙 の念が対したりする、まだしく

なると意識が昏濁します。これ

の 亂酒 法正矯

酷 ことを終うが破しくなつて示 | を置らしたり、既は迫るべき病気 寒 子供に計画すべき場(上) すさま風。滞留 時

(四)

さにかはりはないのです。「駅に子 | たいがい寝室の罪ですから、段節 | 手が、大人でも子供でも冬の悲 をかへつて思信させたりするのが

展帯にからつたり、振気の治り方し

板のする別には、展記を丁既に断して不思議でなくなりませう もでするでは、東東で、7号に関し、いっては野田の子供の横浜で一番がいりつけ歌中の殿があってき間の異を、すし、他の病者にしても、先づ歌が離くために出来ってき間の異を、すし、他の病者にしても、先づ歌が離くために出来ってき間の異を、すし、他の病者にしても、先づ歌が構に、世へ発具の内傷に流症。間にはじまるか、窓間を作ふものとくればいる。 ぶっしは / 起ります、それでは といふ様な話も、これを知れば決 養健して際をうばひさるために、 **台湾出してしまる様な不能状な指。春見が知られ間に窓思して死んだ。の緊急にあひますと、汗が一時に** 祝す、茶を飲んでも属単した例か

にするこもりで想象に入れて深く。なく、既着をして史碑の汗はんで ひき易いからといつて、ひゃみに 結果になります、双子供は見形を

まだ氣掛り

年末を年始・醉ツ拂ひ週間

悪酔ひするはなぜ 餘り相手にならぬが一番です

年末から正方にかけて散造する機能は多く忌年館、新年夏 一覧のれば野地人になってします。年末年前にかけての道原 させる人がよくあります。これらはいづれも酒流であつて めちて音楽にして家庭の人達に聞い感じできみしい思ひを 一等に、酢むつぶれて気寒を聞いたり、折角の鷸脈を

劉を破滅したりしますが、結論刺っかして、けりがつくものです・歌歌信手もなし、仕方がないので、か、一人でおとなしく深へ歸るといが法でせう。人がゐたければ、謝がなければ、非微觀つてしまふ に對する家庭人の心得を一つ

ひます、少し飲んだときには愉快。その修い方は酒の分量によって選

正しい供へ方作り方

節の様になったか、私も色を調べ一来は中床火は延癇の板の所に置く 劇部います。所で何故正方お腕を「襟になつたので御出いまして、本の朝家でも却供へだけは飾っ様で」一つにまとめて大きなものを作る に一定してはをりません。唯国國一節つたもので師座いますが、後に 想によつて異つてをりまして、脳、鉄へは苦は脊目の部屋に一つづつの口の口の一も、それが、の家 小学院改せ申しますと、此のお「10月の」 お戯と申しまして「て、はつきり巡しません。

もので床の間に飾るものでは御屋

作ります、御供への飾り方は、 様的ます、御供への飾り方は、 は物師と随意はと関係いますが、 は物師と所ではと関係いますが、 先づ御雑様の方から事しますが、 先で一枚づつ下げ、ららじろ、 たゆずりはを四個に置きます。 は五枚、白、紅、白の腹で 重ねその上に六角の餅を三 次に 艪取つた贈餅を白、

通にせたものを置さ、その上にうじと小さな視松の根と根を食置さます、次に接前に、やぶこ 第三局

序盤既に手變

記戰觀 『『『子龍双』』 早計?五九角引き

をたくんでおとそか父は側冷値を ない米を置いた長のしと女蜂男弊 赤のかわらけに松雅を敷いて洗っ か要はない時に使用するもので、一よく似てある 日に小位のおかゆにします。 **うし、お食器の方は元旦二日三日** しがしづついたとき、七日は解い 日におしるこにしていたときま 化のお正月の湖偏に珈逸師の方 優さんが個々出外

「くアイロンをかけ、ト り縮して後で東れる。

節りまして、更に朱のかはらけを 側の上に飾ったものと同じものを 側の上に飾ったものと同じものを はし置ぎに残しまして、脚か眺の て七草のおかゆを作り残りを十五 は御経開きと申しまして、正万十 作品を組みのださうで個地いま 不のはしを置きます、脚のはしは

なってある。関にシンリリウッド展立の連行と本 ブソン間の特徴は安全 「シンプソン型」はホ

一内にばかり閉ちこめておく人もあ のと同一の理論から感質にからる 合で一寸外室に倒れくば、たなも りますが、これは反つて皮膚を弱 のが落ちであります 一帯上りに過ざめをして風邪をひく しも外出させずに、いつまでも国 と風邪をひくから』といつて、 ざいますが、先づおとしなしの御 乳吞見になっと『表へなど出す

りや最近開節痛み全身こほばつ

迎えまなく最近は郊ぶを浴える せいか、時間位には定まつておりません時には一時間の中に二 度も行く線な時もございます。 シャは玉字の自身のやうなのが ずつと下ります、何かい、悪は ありませんでせらか

開かれた時、ラムーア館は 黒い支那服を滑て現れたが ホテルで映画人選の後間が 髮結型 ア郷で、緑近架一流はドロシイ・ラムー のトップを切つたの 位属他ヒロイン、シ 楚々とした壁の結び マンス」と言ばれる し出した。此の流行 コーナ世紀最大のロ 一ドワード人世師過

局ると綴に扱され渡く庭行酬れぬ

は東田世子江南でも風光なさい必

受験生と禿

寒風なんのその

一の症状です美神鬼、中時間・一分間に二度も三度も可能に極く 八が停止場にて翻印時間削二、三 ように各却のほと考べます人俗をらく離離鏡磨より来たもので、加 時何等疼痛共世累許の窓なき由越尿熱觀數の多の謝難りの由、利尿

酒井病院長

達もラムーア朗の着似には ら彼女と間縁の結果する女 ものだつた。流石の映画人 ンプソン夫人のと金の間じ その壁は慰其によく見るシ を ・ 表したいのであります ・ 表したいのであります ・ 表したいのであります ・ 表したいのであります ・ ましたいのであります ・ ましたいのであります ・ ましたいのであります が顕常の耳の少し上に直徑三糎を要職せんとする者であります

を飲むなりつけるなりやるがよい 父毛が生じて扱る心配をすに成っ 種の出来た遂其一都分の毛が観音 しますが欧山しても多くは大朋分 潮戸病院長

席上掉話

氣人な様る唸 の 讃 超

金 易二郎

步步角 銀金

作職と推發してゐる は敵角の進路を推翻した衙則なる

魅力の柔肌

間に光します。ヒビが切れるノ 風は巻に吹き荒んで、お肌を傷 窓風もものかは 艶やくと美 外田の前、お飾りになつてから もお肌の受験率です 小ジワが無數に強へる!なんと カラノへに就ききつた初冬の冷 しい滑澤な若飢はいつも貴女の で必ずな肌を勢つて下さい! 叉水仕事の後、レートクレーム

> 用 紙 案 答

で御指定下さい)

方 罄 ረ 四 レートラントムをお買上げの店名と所四 レートラントムをお買上げの店名と所知 が 神愛飯の新聞、雑誌名一つもげて下さい 神愛飯の新聞、雑誌名一つもげて下さい 神愛飯の新聞、雑誌名一つもげて下さい 一 神愛飯の新聞、雑誌名一つもげて下さい 一 神愛飯の新聞、雑誌名一つもげで下さい 一 神愛飯の新聞、雑誌名一つもげで下さい 一 神愛飯の新聞、雑誌名一つもげで下さい 一 神愛飯の新聞、雑誌名一つもげですか。

冏年三月末日新開紙上 昭和十二年 二月 末日

統上病院 止月は普通経つたものを用いる様]

(27)

と本見られる。一生の三大歩と突かれ、角度が明復は三五歩と突がれ、角度が明定していると変形につたのぢゃないかと本見られる。一生の三大歩と突がれ、角度が明復は三五歩と突がれ、角度が明復が明復が出るという。 った氣もする

(東野氏三回版三人目)

△四段

野藤

步

が、とすると手が使つてしまひまい央へ繰り出さうかと思ひました。加速は、四二の銀を のり ましたので一先づ、 七四歩ってすし、それに三三級の含みもか、とすると手が確つてしまひさ

JL、一六歩と突き攻撃準備を超し 「奥野」 九筋の工作はあと廻し 揺しました

玉金 步 氏野與△

作戦と推察してゐる そこで此の情勢を深く研究して そこで此の情勢を深く研究して た機會に楽し五五岁と打つてその 筋より仕掛けを闘る方法も一つの 筋とり仕る

古くならな内心で適常の治療ででおくなっと中々治らぬものだから、共病気が つて置くべきである。其方が失う 小用急ぎ

順層の最直のみが動態会話せるや

答』瀬戸病院長でだるし

肌アレ・日ヤケを防ぎ、四季を通 若肌をまもる〇〇〇クレーム

レートクレームの空帆をそのまく問いて、裏の自地(左の順序に記入し、御近所のレート化粧料参加販賣店にお周け順ひます。(となた様もとしども順應等できい離し人様何級でも繰りません)
ー OOOクレーム 〇〇〇〇の中〈字を入れて下さい) の名を御存じてすか?

n,

総狀紀を那水産紙に質すと、入漁期の常時は領温が収録想が當らないので常業者は即鳴を懸げてゐる、本年の貿 賦心部内まで回游せず既外に止つてしまつたので從前の心でゐたものが突然中途で温和を示したため鶴点の産卵

人工孵化もつひに明春に延ばす

統營の漁村に悲鳴

の五ヶ年間に亘る道路経郎の統配のる、昭和七年から十一年末まで

仁川府廳の玄關前に集めて

0

現金とお米を撒

十五件、その数量二百七十六貫あらばれた金塊光極代数は八百

|6||亞源に建してゐるが、この||细域に伸ばされる府政の同僚の手名で金額にしてザッと三百十||[二用]|| 蔵末の寒経に並くカード|

人館、再年版、修経版支部の發援、同情等を府内一層に配作し温い。――此簡単業協館では府、聯合婦一を得て去っ十日から二十四日まで

甲鮮の棉作獎勵

い光明を投ず

豫想卅萬斤の漣川の共販

遂に五十萬斤突破

回網が及ばないこと、なつた職館もあり、一方この三、四日の総典が置が脱版となり回院場所も続り作館地域に関までこの総典が置か脱版となり回院場所も続り作館地域に関まて 十日から道水を跳旅に開催客局が鷸勘段し施行能費中であつ限金の時間投資温が本刻子に入つたので鎮海器回游を待ち二

た個人工解化も明春一月七月頃から始めることに勉更した

で開送、七十国の劉金(前回 支部で開送、七十国の劉金(前回 支部で開送、七十国の劉金(前回

金典名輸

國境深題の

苦心で激減

も逃げ出

が祟り

和水組の復活

一を誇つた

當時の委員を中心に猛運動

近く各方面に陳情

荷で開設は門数されてゐる

深夜に

輝く。民衆の太陽

丑満時に仁川の歳末警戒陣を廻る

嚴しい野村刑事課長の姿

签山、北部、南洲方面への大尉出

運動は修近に至り着く活後となって、一、 数氏が中心となって猛運動を出営時の削工委員安州郡金に督氏

材木泥棒と

永登浦署の兩巡査 蔵末警戒中の手柄

日

いとて加長問程門、有志解問別南

胸答用の黄

柿は光月米黄淵砂制桃出荷組合で [末同] 思北の名産設調の改良于

小の扱った田園で大震跳の未逃が 日散に逃げ出したのでこれを追踪 お新行の収通りを提込が成中杯木工業十一差記山本、梁物假原巡査 いの活動を既けてゐるが二十四二 こしたところ様木を投げ棄て、

第木を海取したことを自白、除罪

めるらしく別問き取調べ中 ☆B(で)で東洋紡績で基準数据で 取調べたところ同人は住所不定金

廾陽の電燈

架設を終る

|若子と二十五日竣工、用かるい| [**永同**] 大田道点探点的影

の下で資半を迎べることにな

へきな

お台所を

七上うと然終者では一個常名長

坊さんの裁判

[音解] 既報、海は寺の僧僧様の 不服で控訴

吉正殊符、各主任が回頭に立ち水「蛇北文店、同窓町電光川島由三郎總指命の下に傾引法、佐藤高等、「氏に二十四日忠北道峡、大田街流 **西族末登院師を張り不眠不 | 氏を訪問しその實態方を上情した**

朝(べ)が同面際里韓正型のボケッ て海走するところを漁糧中の腐船とから脚金三国人りの騒節を辿つ 安里市場で京城府並江町四八中地 「関州」まる廿一日郡内聖安田 スリ公御用

紛龍なケースに詰めて競発順答用。 約事 存在第の表体、令道反第二回

思はず間のなかに不動の姿 でありますヶ

ばこれはしたり楽器にたつおほつた極人が敏度をとれ 強い繋が非常野爪線にビリ巨艦から出い野村郡長の力 々観古野、しつかり報むる 私服所規則だ

ら第三腑に入り贅殿のゴールに入るが難察官に次も競 らす十萬府民のいはゆるの段果の太陽のだ が野甘濃長の一族

あるの意識は

さに充もあふれてゐる(寫真は底)

かりかつ迎へる側距のある日の巻 出て脱を散がしてゐた一人の実し、が鯉く、影優だっを格の解紋な塊 1 たが、何といふか島であらら、ま いが安をとりまいてしまった。少 北、そのなかに描くこの頑しいった。 かららか、 置いく 一般の木立の間 次 に子供い造んだ無い良の割じ意 娘に春の耳のやらた利すさんの生 におれて可愛らしい子供が正 一人一多様に 一般の木立の間 次 後でみない 一般でかな ことである らか、置いく 一般の木立の間 で 大人だ、際田利すどんこと 明る 話の一覧 は、おりまいてものもの におれて可愛らしい子供が正 一人一多様である この第3交の顔を知ら ことを題える 近日 はない 表であない 表であない 表であない 表であない 表であない 表であない 表である この第3交の顔を知ら ことを題える とに これ 子供の壁は造みきつてゐる。 つたまでは石井町である ないまでない この第 に と願ってをられました。午前一 1 たりまいて 1 たりまいて 1 たりまいて 1 たりまいて 2 たりまいて 2 たりまいて 2 たりまいて 2 たりまいて 2 たりまいて 2 たりまいて 3 たりまいて 2 たりまいて 3 たりまいて 3 たりまいて 4 たりまりまいて 4 たりまりまります 4 たりまりまります 4 たりまりまりまります 4 たりまりまります 4 たりまりまります 4 たりまりまりまります 4 たりまりまりまります 4 たりまりまります 4 たりまりまります 4 たりまりまりまります 4 たりまりまります 4 たりまりまりまりまります 4 たりまりまりまります 4 たりまりまりまります 4 たりまりまりまります 4 たりまりまりまります 4 たりまりまりまります

塗りかつ迎へる別班のある日の墓 出て邸を敷厚してるた一人の。

がボタノーと本立いなかから走りにてた真茎の夕暮れの目の光、宝 コーラスをでめた。、四人の子供、胸に顔をうづめた、いかにも寂び

でられた今年五ッの弟さんは姉の

と眺め週すことが出来

花の帝都で婦道を磨いた

明朗そのものゝ利子さん

へで切廻は

金規影響は離成の一金を辿りつくの配高特別を担ぐ行く安養第一種の配高特別をなり思って形 た教ひ

復を示しかて」加へて軽減

大貫足らずでこれを超る財感を極「すると三十分の一足らずといよ数」探歌の苦心を観聴ってゐるらも十一年は代数値かに一十一幣 | めた照和九年の百八十四貫に比較 | 退ぶりをみせ影響演器の裏に関度

一千餘名の細民 V

して同じやうに失息致しました。がはつきり表現してゐるやうに何して同じやうに失息致しました。 すぐをれた名門の領域に寄つた利すぐ後から次の世界では、……と一手さんの生態にはその期降、魔姿・すぐ後から次の世界では欠に逢へるか。 本に畏敬られてゐる、健心ともにた、次の世界では欠に逢へるか。 本に畏敬られてゐる、健心ともにた、次の世界では欠に強へるか。 標も人格器としていまだに他の人のため盛し、また亡くなつたお父

▼全国各際店にあり

正直な學童 【近州】公正直な學童 【近州】公

た風に、また経動の信頼をおいて

かれて同地万に於ける朝産の組織が原佐と各種開館はり市場を開

所、金融社会、普通一次、駐在所 近路高級にあって入口一千を算 清州 经州海流量运搬、股階 同部内では堀川に吹ぐ町で面事

架設陳情

泊風に電燈

人愛を求めてゐたが、五銭、 回に選し、各精米町か の同情の雨を降らせた、

民の同様に数はれるものは四百万 八世帝二千能名で午朝十時頃か 設ひの手を符つ細

| 一国を興へた、生活歌音が呼ばれ | 電気升力室一半、現金は一国乃室 | でデから三腔にわかれ自米は一世 てゐる抗餓。非月の一元化のため機 兵部 刃所座の女媧に押し寄せた、 『新正月前を選び裁末同情金品を

ある哲正月を際上し新正月による ラ撒いたもので、朝鮮の舊君で

段に何度も何度の頭をさげたかり |州民国歌館にひたりつく肝郷館 そートと殴つて行つた

威未警戒陣 最後の活躍

痰咳藥龍角散

特長の戦を一段の

飛ばしてしまつた、従来陸地様は一金に超合におくりギャングや電焼 てあたが部営師で駆動を開始影館「工既に十七日今のところだいした 少に備へる、厳末非常務成に入つ も破後の際に入り、一十七日から 軽成に二十六日から施上第三期間 心死の路服師を行く一川、器の接末 [三月] 蔵末非常賢成コールイン

か一年にしてこの即かしい成職を国作したく年和な能器である 機業傳習所卒業式

将米黄梅、江脈兩直の極作樂跡に

光明を投ずるものとして都當事

銘酒菊正の工場 永登浦に新築成り

明春新酒を賣出す

一川路「監理」干五百餘坪を買い占

七月起上した獄正宗の朝師上塩は の総工。三十五萬原**國を投じ本**年 人口左側、京仁偏道に沿つてある

はお酒の工場が出地

【死費用】ビールの永弘和に今世

意識以北では出來ないものとされ

| 行卒率生は女子十八名|
| は二十二日午後三時から同所で類は二十二日午後三時から同所で類







数包な全完の放角機

十二月廿二日 廿二月廿二日 十二月廿二日 网络阿鲁女王 十二月廿二日 网络阿鲁女王 十二月廿二日 中国一大街 十二月廿二日 北海明祖 江市田町 代理市 北海明祖祖

十二月廿三日 十二月廿三日 代則店 高田 西倉

少山出机,代理店,原籍加资支店 十二月廿四日

十二月十六日十二月十六日十二月十六日十二月十六日 十二月十六日 1周末龍地 伏木正行、新潟、瀬田、橋川、青藤、南部、小樹の子村共後が大阪湾代で街・セテーベーの出版が全の大田市に加工にかび後がの代理市に側側的本下度候では、1月10年日の側の日本では、1月11日に加工にかりませんがの代理市に側側的本下度候が、1月11日に加工に対している。

区 は、 優に満州間道路監修はこの観記成 したので十九日道土木製品輸送、 したので十九日道土木製品輸送、

開助を集めた復活阿博斯を一二十日竣工検査を行った。

料亭の主人

ての他に打撲似を受け治療中含じ 口論の揚句格闘を始の壁は胸部 。飲酒虧配し料理店主金美CV. お客を殺す

| 第署長、代田司法三位がお供をして街から街へ緊張には 三野有熊華高長が仁川第の巌起繁成狀況を耐寒に来たのだ。4もた街をゆく立天波があつた、二十四川と南二時道景祭 朝射――いかめしい整察の健康を着モ戦りに |十重、全市くまなく整度の防犯陣を布いた

野石和海部長は潜長に指すでいはさずに川路の不識の努力

ウム、さうだらう、田情は大般到つてある

仁川は猫卵喪金或は豫防上なかくくむつかしい所で

をわぎしつた、また信息が一つ長く応をひいて観報な祭に議

風が死んだ師走の港街には星のみ

・ハ、XX交後虹筋のXX ・脳にタッ・ 一つの風い跡 れた、午町四時半――野村港長の一隊は街から街をゆく

中折をまぶかに携着で顔を 「この緊張、この推録なる野祭魂、たと数は世界の協力と

つよやいた、なほ黒澤温長は左の如く誰つた 理解、
既は自覺を行つのみだ
に野村態長は開のなかに一人

とんど被害者の不注意によるもので今後はこの国立受行この頃の声勢用の整難間の多いのには驚くの外ない、ほ ためではなく病民のためだ。一般はよく理解して関盟にめではなく病民のためだ。一般はよく理解して関盟にしたい、十分注意して登しい、競末鉄展は繁衍

不暇不休、思もつかの世末非常意識はいよくと「エスリカ

りで展行式の側道、精米性様を握用上記は弾炉干除炉の縦が埋え道

咳頻發患者/

咳

九州郵船株式 嶋谷汽船株式會社

社

ふカラセキー 駅に取した 供ふ せき 彩一駅

喘

息 咳.

應

者

繁を 敷じてゐる № お話しく 治れる 優悠 急悠の

人の歌の殿

思

者:

百

態は磁度を懸さぬやう 機の せき 一様に

職けて賦制効果駆発賠タンに掘のまちる

●番味爽快にて 用なく ●胃腸を き /^ 本舗 良くの絶對に副作 害する心配更になし の何に 雅ふ暖にたしかは子供の 碗塩めで

中国 東京市神田 国際 高町 東京市神田 国際 藤井得二 耶商店 (では) 100 大八二番 最青東京九一番 111-13 (111-13) 111-1

高杉高市回浦南 高杉高市回浦南 (1) 新雄特斯語)〇三〇番 一個新雄時新雄時代理解

全嶋る汽船駅出机



酒銘級髙



ヨチンキ

於全國酒類品評會天意

● 年末年始都贈答用

釀吟藤齋



英國 ^ 御差遣

▲卅一日午後六時六歳式▲ 間午後八時除夜凉▲一月一 日午前二座蒙日愿▲間三日 午前十一時元始祭

ファン喜べし

内地六大都市と同時に

御沙汰あらせらる

内で行油製成を行ふ

ほ中国二一間は神聖人務所

中華民國英雄を貼へ、日支城

級席はしたがこの美はしい語に配

近日規門科学館長はニコニコして半島興識がでも黄い日規門科学館長はニコニコして半島興識がでも黄い日本という思うた。

ステヤーや「館と協力して皇島塾」の向上を圖「に二本であつたのが、この新養出」のカフワンも「た、各興趣趣家方面では本荷像問「戦闘には内地と同時封門観が僅か、昨に封明観』エノケンの騒が繋かれるとになつ一つてゐるが、その結果本年の正月

のぞき(新典) 人祭簿:香楽(同) のぞき(新典) 人祭資・在来(同) 人祭資・五十又・江男(松竹) 人祭人園 代(アールケーオー) 人業人園

買物中に

なる 三自園とダ イヤ入指輪

3

果ては本町署の採権へガチャ いかただで飲ませる金はない。 か上映

・ 「 ▲マミもち曾議(新興)・ 「 ▲マキノ) ▲マキノ) ▲マキノ

銀祭を通して歌迎朝師を継続す

言とになつた、映画ファンが得

錢ホテルで

本が武器の産業豫備軍

な怪気焰

勞働宿泊所の哥兄

からご選問はまで指つてあるうからご選問はまで指つてあるう

じめした物の者へ方は眞つ平だ

所は略い失業者の群とはどうし

質のが節面白く浪曲を唸つてゐ

る、それが削潰して次から次に

置の場で質切中現金三百国時假七 京城西昇町東谷松代さんは廿六一 「後六時ごろ原城本町入口三越」

明一時坐

あすの天氣

れたのをスツボリ洗い流す気機

のようは大臣さんでも俺たちだ

北南洲に近づからと、本合型最大な中、旅費を稼いでは一歩一く途中、旅費を稼いでは一歩一子をのこし福州へ股旅稼ぎに行び出した岩者もあれば内地に要

家がきまつたやらにお願や握り

部なんて追はないんだ!」

があるからだよ、チャポケな幸 が氷ても萌着はこの第一本さ、

グをかざらパラマウ 飛鶥はPGLの跳物京城銀森のエピロー 発信作力部をそろへ

洋畵フアン三年なつり

明二十八日から三日(台を鶴川歴路で映晶)ント特型名間道映は、作で井上正大の名舞 問君草即場に開かれ。俗した「多大大いに

B

本

樂 百 +

五年

カタログ世早

の溜かつまつて来ると街の底市 おさらばを告げて行くといふ、

脂方はなくただ消るだけだが年

あらうと常願がはむつかといい

資本主義かどう

産業養備軍立グングンを街に押

し出される地梁は今に始まつた

飛野前の等極 宮治所の愉快たひらしい人気を呼んごある、こ、たのかこの造影供脳問答が潔暗

構なのだ、だからルンペンだな

いてゐる。土脈劑。では例によつり間境を越えた解液の午餐劑を明

の中華民國総制事道以生民を利田

八千部氏の「そんなによるぎ込ん

パーの「人で観謝した大の観日家

トーマス氏らが登壇したが、メントを抜き合つて、蘇つたやらな版は

を調る會

東京在住の縁放者が

腹藏なき意見交換

滿朝鮮

土曜會の日支交驩

長、平質師師サービスステーショー景の話に花を吹かせた擅句流観韻 では六月前出入千郎、唯實政警府「ごあては別月だと、是華來和へ」では六月前出入千郎、唯實政警府「ごあては別月だと、是華來和へ」

長はじめ近城側人ナーデー氏。一事が赤、和田さん遠は白の備萄酒

われらの氏神様京城神能では

京級紳社

|本府町製物局長田中武雄氏を| た、田曜書は

| 年後三時、同館職業に於 | 80mにつき意記の安認的を開催し | 社会| 中央南部閣僚では | 走として 当場部に於ける南部大間

叶末年始の諸筠儀を次の通り

親日總領事を引張り出し

されたなどの信事すら親生した。 されて増結中の列車と列車の間に 「新かつき」でやり、川島、川島、川島、川島、東客人、一八九人な鎌谷四、二、海客中の一名は紀郊り谷に押し田。黎牧人の内部に「あかつき」でやかり、一八九人な鎌谷四、二、「あかっき」では、「一八九人な鎌谷四、二 この殺人性維省の難した同類の取り 「製落して他く命拾ひをして敷ひ出」

るで掘りやうな新記録を出した、一七日七間廿三銭であるが、廿四日 | 「一個人」 | 「一個人 | 「一一一 | 「一一 | 一一 | 「一一 | 一一 展画の第二萬二千国に比較してまったけで見ると異定数人は一萬四千 入は底近ぐん~~増加し、世四日 □ 2 対域は同時に明治州八年の京 | の質収は二萬五千百廿三回甘

容出来でぬ

配りる

中央線



に出來る

延長四千四百九十五米 日本中では正番目

避する中央総の第十七工原代就隧道の初入礼器再局では明年早々大馬力をかけて建設を促 月七日行ふが、工費粒六百萬間でその中 位のものである

· 计本的には管子、主水、野、紫正式で五年間隔距は越長四千四百、十三米で朝鮮第一位

製問題に翻する可成り突つ込んだ (結氏で、何れも前側に於ける重)とは氏で、何れも前側に於ける重となる。 利田純

る風の響い館合であつた。

約九千五百回、白米五斗人州県、一に称も寄り船埋中であるが同情金

一から例子の後本月情選用を開始 所に集まつた金品を北六十

方面委践が元達となり各「時間事業」て直もに配続に着手するが本年は

人情にないところを見せてゐる ▲月形字平太(月街) ▲月形字平太(月街)





干上機の男、

オリンピック 安くてよく寫る ジニアーカメラ





是非一台を!! 京城本町二丁山 器 會 社 東京 (東京) (東re 金 特別立替

御子様のために

オルガン 金三十圓 よりピア ノ 金玉百圓 より

月の化車鑓しののお飾の市を七五

||一部が蘇銀前景場に新らしい間線||〈宮真に七五三種のお飾り市)

◆それに世六日からはお正 やうな小さいものまでズラリ

阿片密輸

調の窓し以上の大ものから子供の

てもあと五日、お正月も目前にや りまで人の屋を得ふお飾道りは様

受除案內部帶票式員

問題の規模は日本の表現の規模は

胸班科大智地

の音と抵に押迫つて泣いても笑つ ◇……◆これから大晦日のぎり◆……◆お正月のとひは勝つ〈开 の軽を述べて新春線を奏で出し

お正月の化粒廻し

七五三繩のお節市開く

ーナスが失敬

L版の淡水は像相以上の増加を示。 校三圏の増加である ・ で本別は負せ六萬九千百卅七枚2

状に使つて事物は難に擬大するりのため製造が来城するが計の

この事を軍大門署員が採別検証

年賀電報

で取扱ふ 一月十日

消防出初式 大京城の華

一月六日擧

旣に二百萬を突破

最後の質狀

群 王

刊年末年始缺禮仕候

原道春二

۵

 \mathbb{H}

直

夫

マると平誠的西城里利東一さん四 明英部等者(*)である井三月夜前 財 見のボーナス十種を盗み情なの京 十十二月夜前 財 東京・ナス十種を盗み情なの京 十十二月夜前 財 S計価してる少年を本所等員が期間当日夕五時ごろ京城本町三丁日**憧れの京城見物**

一十六日の洞査によると引受は削

|動し本期は||百十二萬八千四百八 十五枚で約二冊の増加、動着は町

ることにした 利用消加に鑑めその取扱ひ 京城前側局では平野信報の 期限を一月十日まで延伸す

新春を飾る。大京城の華々僧の

九千五百圓集る ら下村鉄祭部長、新母道防署長相

職業紹介所

年末年始のお

大きたの

| 次京日茶内

概不を空へ盆々間用する失業者 ・失業地域から数が出る 州日まで無休

国五十段から四回位にありますが長く御辺州の

馬場溫泉伊藤孝平朝

安 駅 英語六四回勝階語 系記度申込一月八月言語解中學等 系記度申込一月八月言語解中學等 京城指表育川町 京城指表育川町

新一灰 多単人向比較品間用 京城東大門 新民間居 京城東大門 新民間居 一京城東大門 新民間居

中 八用担內權人 中 八用担內權人

京本三三三一番柳岛曾

「お好きなのよ。御自分で、好き」もつくことが出来るんですもの。 あたしは安心して母のところに落 そしたら、あなたも、羅子言あら あたしも、母も、みんなみんな幸 たが選手さんと結婚して下されば て、君に仕へ、韓に奉ずる道として務吊を奉る事と同一だと解して て窓んで献上したのであります 海川経に既に舞園五年帝政 官信は二年を経過した。 機形に當り過去一ケ年を 康德三年を 満洲より 回願して

脳になるわり

第一景

のお起揺の御殿新栗祀いに聞城を第二日景

四八時一〇分(今日の天気見込士前七時五一分(東)ラギオ讃録 第一放送 後山 氣象通報(今日の

選作り部さんサンタ 準 双側 下雄 かぶく・デエ 膜田 下雄 日 役 作曲進指導 宮市 野田政 京城青い島章語劇 出演 京城青い島章語劇 田度ガンクス河畔第二景 御殿

間 | O時(井)日曜駒行川福井市 1、法要 御正

| 同一の禁錮の分(層)講画 | 対象 | 作山 |

漕新た雰園氣化するは仁丹獨自の効果。 持つ。即ち、仁丹は腦神經を刺戟し、鬱血を撒じて明明痛、叉た突然不氣味に襲ふ眩暈を解消するには仁丹

血を撒じて明朝を展するには仁丹が最も

滋

齓

其上にラツキー抽籤券 臺枚宛添附

銭包部座に進年!

作りに

抽籤の

上、左記大景品進品

富士 御 試 用

容

滿洲容

nn ett <u>n.n</u> 分 鲋 附 (三百三十 「百五十

Ā

三 二 十 十 十 銭 銭 銭

プロ学 仁丹化粧麗泉中瓶 - ***

というにか

洗顔セツト 一年宛

千五百名

文化電氣スタンド(この内ね鮮みの一品) 女・一 アベンシル 組 合 六 アフランス人形、ハンドバッグ、

合六百

名

D.S. 新本門日

Ŧ

五十錢 五十錢

抽籤發表

昭和十二年一月下旬、本紙上にて

一萬八千名 三千名

リン合奏 新日本音楽

在海市曲。江口四部場面 年山巡巡路曲 二、客楽 年山巡巡路曲 [繁茂] 坂田科

同二時二〇分(東)吹奏樂 新揮 平 山 猛 雄 レラ15再曾16タンパロンとコロキアリーナ13ショバン14エスト

な

三面・三面・五面・十国

各地薬店にあり

廿七日(日)

の思療と其の意義に就て同一一時一〇分(城)諸韻 Ē

同九時五〇分

等^{與解語}河 澤浦精米所飼料部

山)

と 大阪毎日新冊(南州通信館局長 5年後蒙時五〇分 遠洲より(新草) 日本語演 歴徳三年を回題して 講演 歴徳三年を回題して 一 高松春月作詞・薩摩花風作 同一 毎 10分 (東) 禁邕 別れの同一 毎 10分 (東) 禁密 は 10分 (東) 禁密 が 10分 (東) 禁密 が 10分 (東) 禁密 が 10分 (東) 禁密 が 10分 (東) 対 10分 (同四時 ニュース(京享通報・安川の四時 ニュース(京享通報・安川の日本音楽詞を宮場曲 同六時 (東) なぜ

京城青い島重話劇趣の連指導を言う、野作

同

| 同一〇時 野窓で焼い | 電域より・電虹板 | 加速等併唱(A

外四題ス スラムに卸く販安(左側) 出面者 出面者

製造元

Ш

本回

朝鮮代提高 京城本町

蟹木 村

藥房

四五七番

同八時(東)淡花的 孝女岩高 淡谷のり子外八名

一、 敞秤传模樣 平山猛雄編訓 同一時五〇分(東)和祥台奏 レオニード・クロイツア· 同八時三〇分(東)ピアノ猫奏

ワインクス10湖蝶11頭る文字12回レスタン7朝郷者8返事9ス何な照葬曲5エウセピウス6フ 一明祭名ピエロるアレキン4曲一、網内祭 シューマン作曲

紗四 2前郷をひて

ガンデス河の渡舟の中にて大王森 に紹かれることを制限する

京城青い島電話劇場 g (話) 壺

分〇三時九前

わ」に費く自信がなくなつたのです。厳ひなんちゃないでせう?」

これは、好きでも撮びでもない!

我が小にいましながら云つた。

と品技に推行さらな野蛮を我と

「党も角」この問題は君の病気が一けなのよ。あたし、この二日間、

ちやないと思ひ込まうとしてるだ

やがて舟は同ふ虎に若いた。窓は た、卵巖でも燃大た配質級がはら 長い間の大もつて行く金配達の自燃語あり、 な郷郷の御殿新塾の祭りの日が米 | 第二二景

と骨女に會ひ須最新築の紀ひの日、遊しい場と共に天日職く、爲にことサンタ館さんは図らずもお短標。吉た家屋がヒマラヤの山頂に現れ

の関が暗黒の中に苦しむやうにな

め美しい昔にかへるのであつたに再び佛陀の悪みの光かさしはど り頭な大王の心もなほり、この関ケーチェ・ケンタが年の努力によ

1 同九時 (東) 郷泉劇 山内繁作・配役 金 次 郎 金 次 郎 見子

り) | 「同八時五〇分(東)質波染 | 同八時五〇分(東)質波染 | 同八時四〇分:山)俚祗 | ラヂ+陶研究質 | 同八時 (大) 漁花節

同九時三〇分(東)

元、洪、同二時(城)服範座設官をの元、洪、同二時(城)服範座設官をの成り、

いる。

島づくし